

平成 24 年度 津高東京同窓会の概要報告

平成 24 年度の東京同窓会は 5 月 26 日(土)11 時 30 分より、東海大学校友会館(霞が関ビル 35 階)において、230 名の同窓生が参加して開催されました。以下では、会の進行順に撮影した写真を解説しつつ、概要を報告したいと存じます(並びの写真は左から右の順でご覧下さい)。

11 時 30 分、司会の渡辺徹志さんが開会を告げ、同窓会が始まりました。彼は良く通る美声で、閉会までプロ並みの手際の良さで見事に進行役を務めてくれました。



本年の輪番幹事である S40 年卒を代表して、宮村智さんが開会の挨拶をしました。その要旨は 津高東京同窓会

に新しい流れを作って活性化すべく、幹事より若い S41 卒から H3 卒までの学年毎に「呼び掛け役」を探し出して同期生に同窓会への参加を呼び掛けてもらった、その結果、近年は 150 名前後に留まっていた参加者が 230 名に増加した、呼び掛け役の貢献に心から感謝したい、伊勢高校を含めて東京同窓会を盛大に開催している高校が沢山ある中、後に続く輪番幹事も参加者の増加や内容の充実に引き続き努力して、津高に相応しい東京同窓会にしてほしい、というものでした。

谷口武東京同窓会会長が挨拶され、久し振りに 200 名を超す盛会で嬉しい、どうかしっかりと絆を強めてほしい、母校に対する誇りと信頼を持つことが大切である、等を述べられました。

飯田俊司本部同窓会会長が挨拶され、参加者が 200 名を上回ったのは平成 8 年以來 16 年振りであり、極めて喜ばしい、本部では過去 1 年間、東北復興支援旅行、宮城県への義援金の寄付、有造塾の開始、津高同窓会総会開催など様々な活動を活発に行った、等を述べられました。

榎本津高校校長が挨拶され、「高い知性と教養を持ったリーダーの育成」と「人間力の向上と進路指導の実現」を目指し、「自主自律」を重視した教育を行なっている、今年の大学入試では、国公立の難関大に 100 名合格の成果を挙げた、等を説明されました。



恩師の杉浦茂夫先生が挨拶され、自分は来賓の中で一番の年長のようなが、50年経ってもやはり津高は懐かしい、今日は時間を止め、更にその時間を津高の時代に戻して、楽しみたい、等と述べられました。

一連の挨拶が終わった後、梶田正治岡山大学特任教授が「環境にやさしいトマトやメロンの栽培方法」と題する講演を行いました。スライドをスクリーンに映して、特許取得済みの「防根給水紐」の原理とそれを使ったトマトやメロンの栽培方法を分かりやすく説明されました。

12時30分頃、藤岡美也子本部同窓会副会長より若々しく元気一杯の音頭で乾杯しました。乾杯後、参加者は暫くの間、年次別テーブルで食事と歓談を楽しみました。



参加者のお腹が満たされたところで、この3月に津高を卒業し、大学に入ったばかりの新卒会員である宮崎善行君と藪中映美奈さんに挨拶をしてもらいました。司会者の「将来は何をしたいか」という質問に対して、2人とも「バイオ関係の研究をしたい」と答えていました。

13時20分頃、年次別から出身中学・地区別の席替えが行われました。過去数年間の席替えは居住地区別でしたが、今年は先輩・後輩が共通の話題でより盛り上がることを期待して、出身中学・地区別に変更しました。この変更により、同じ中学出身の先輩・後輩が初めて知り合うケースの少なくなかったようで、席替え変更は総じて評判が良いようでした。



【席替え時における参加者の大移動】



席替え後のテーブルで暫し歓談してもらった後、幹事の渡邊智恵子さんの解説で S40 卒制作の「古き流れのここに会い、また新しき流れなす…」と題するスライドショーが始まりました。

津高の沿革を辿れば、1880 年に津藩校「有造館」跡に津中学(陳川)開校、1901 年に津高女(三重桜)開校、1948 年に両者が統合して津高誕生となります。

参加者は津中学の開校から現在までに至る 130 年以上の津高の歴史を、記念すべき建造物や主要な出来事などの貴重な写真で綴るスライドショーを熱心に見入っていました。

ちなみに、幹事である S40 年卒の私共は高校 1 年の冬に津高の大火に遭遇し、冬寒く、夏暑い体育館での授業を目一杯経験した学年です。



スライドショーの後、奥田務大阪同窓会会長が挨拶され、津高大阪同窓会の参加者はいつも 140 名前後であるところ、今日は会場一杯の人でびっくりした、230 名もの参加者がとは凄い、大盛況を心からお祝いしたいと述べられました。

前葉泰幸津市長が挨拶され、現在の津は皆様が知る津と異なり、平成の大合併によって、人口は 29 万人、面積は琵琶湖やシンガポールと同程度の大きな都市となった、他方で、産業廃棄物の処理、大門商店街の活性化などの課題も山積しており、解決に向けて頑張っていきたい、等を述べられました。



同窓会も閉会に近づき、恒例により、津中・津高女・津高の順で、校歌斉唱が行われました。津中(陳川)の校歌斉唱には、S18年卒の稲葉慶一さんも元気に参加されました。

津高女(三重桜)の校歌斉唱には、S11年卒の信藤節子さん(94歳)も参加されて、力強い声で、しっかりと歌われました。

津高の校歌斉唱では、若い同窓生の参加が大幅に増加したことを反映して、例年より若くて力強い歌声が会場一杯に広がりました。



来年度の輪番幹事である S41 年卒代表の小原健さんが、来年も盛大な会合となるように努力するので、ご協力をお願いしたい旨の挨拶をされました。

最後に、本年度の輪番副幹事である S52 年卒代表の橋爪吉博さんが閉会の挨拶を行い、関東在住の S52 卒はこれまで同期で集まっていなかったが、今回は副幹事となって 22 名もの同期生が一堂に会する良い機会を持てた、同期のみならず、先輩・後輩とも交流を図れて、誠に楽しい意義のある会であった、12 年後、S52 年卒に輪番幹事が回って来る時は立派に任務を果たしたい、等を述べ、14 時 30 分、同窓会は無事にお開きとなりました(了)。



(お断り) 本稿の写真はご本人のお許しを得ずに掲載しておりますが、もし削除を要望される方は同窓会事務局までご連絡下さい。